

船舶事故等調査報告書

平成24年6月28日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2012那第7号	
事故等種類	衝突（岸壁）	
発生日時	平成23年12月2日 20時05分ごろ	
発生場所	<p>沖縄県那覇港</p> <p>沖縄県那覇市所在の那覇港右舷灯台から真方位145°435m付近 （概位 北緯26°12.6′ 東経127°39.9′）</p>	
事故等調査の経過	<p>平成24年1月20日、本事故の調査を担当する主管調査官（那覇事務所）を指名した。</p> <p>原因関係者から意見聴取を行った。</p>	
事実情報		
船種船名、総トン数	旅客フェリー フェリーあけぼの、8,083トン	
船舶番号、船舶所有者等	140737、マルエーフェリー株式会社	
乗組員等に関する情報	船長、一級海技士（航海）	
死傷者等	なし	
損傷	右舷船尾凹損	
事故等の経過	<p>本船は、船長ほか27人が乗り組み、那覇港那覇ふ頭2号岸壁に向けて入航中、船長は、港の奥へ向首するために左転舵を令したが、潮流により圧流されて左回頭することができず、操船困難になり、港内に停泊していた付近の船舶との衝突を避けるために後進したところ、平成23年12月2日20時05分ごろ右舷船尾が那覇軍港1号岸壁に衝突した。</p> <p>本船は、衝突後に体勢を立て直し、自力で那覇ふ頭2号岸壁に着岸した。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 曇り、風向 北西～北北西、風力 5</p> <p>海象：潮汐 上げ潮の初期</p>	
その他の事項	<p>本船は、1軸右回りの可変ピッチプロペラを装備していた。</p> <p>本事故発生場所付近は、前日の降雨のため、国揚川からの港内への流れが速くなっていた。</p> <p>水路誌（九州沿岸）には、那覇ふ頭は国揚川の下流にあるため、下げ潮時や降雨量の多いときは、西流が顕著なので、離着岸には注意を要する旨が記載されている。</p>	
分析	乗組員等の関与	あり
	船体・機関等の関与	なし
	気象・海象の関与	あり
	判明した事項の解析	<p>本船は、那覇港内を入航中、国揚川からの流れにより圧流されて操船が困難になったことから、右舷船尾が岸壁に衝突したものと考えられる。</p> <p>本事故発生当時は、上げ潮の初期であったが、前日の降雨により国揚川からの流れが速くなっていたものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、本船が、那覇港内を入航中、国揚川からの流れにより圧流されて操船が困難になったため、右舷船尾が岸壁に衝突したことにより発生したものと考えられる。</p>	